

「珍島犬」の恩人，初代会長森為三先生

2008年6月，本会に次のようなメールが大阪在住の浜名様から届きました。

兵庫県生物学会
奈島弘明先生
武田義明先生

拝啓

突然のお便りをお許し下さい。

私は獣医師で，一昨年まで鹿児島大学で教鞭をとっていましたが，今は定年退職し，故郷の大阪に戻っています。去る5月中旬に韓国の獣医関係学会に参加した折に，私の親友であるソウル大学名誉教授の韓（ハン）弘栗先生から次のことを依頼されました。

韓国の珍島には昔から「珍島犬」といって，天然記念物として大切に保護育成されている犬がいます。この犬のことを，理学博士・京城帝国大学教授の森為三先生が「珍島犬」（日本犬，第9巻，38-44ページ，1940）（資料1）として詳細に報告され，私はそのコピーを預かっています。

森先生は珍島犬を当時の韓国の文化庁に申請し，それがきっかけで天然記念物に指定され，現在に至っています。したがって森先生は珍島犬にとっては大恩人なのです。そこで保存会の方々が先生を顕彰するため先生のお写真を探しているのですが，どうにも手に入らなくて困っているのです。

私は恥ずかしいことに森先生のごことはまったく存じ上げませんでした。ネットで検索して，動物，鳥類，魚類，昆虫類等全般にわたる大動物学者で，数多くの業績を残されていることを知り，驚嘆しました。そして，どうやら戦後は兵庫県に住まわれていたように拝察されました。

さらに調べていき，ついに三木正士著「森 為三先生を偲んで」（兵庫生物，第11巻2号，1996年3月31日発行）に遭遇しました。

以上でお分かりのように，私の目的は森先生のお写真を入手して，韓国に届けたいのです。まことにぶしつけですが，この論文の三木先生の所在や連絡方法，あるいは直接森先生のご遺族等の所在や連絡方法をご存じないでしょうか。またもし貴誌のこの論文に森先生のお写真が掲載されていたら，最善ではありませんが，複製できたらと願っています。（以下，省略）

早速，本部事務局で対応し，三木正士先生がお持ちの兵庫県立農科大学副学長としての自筆署名入りの森先生の写真（資料2）と神戸大学名誉教授岡田安弘先生からは岡田先生ご自身が編集された『神戸大学医学部50年史』（平成7年5月25日発行）に兵庫県立医科大学の予科長森先生の写真（資料3）を提供していただき，写真2葉を浜名先生にお渡ししました。

ソウル大学名誉教授の韓（ハン）弘栗先生からは浜名先生宛に次のようなお礼のメールが届きました。

送信日時: 2008年6月23日月曜日 18:26

宛先: 浜名克己

件名: Re: photos of Prof Dr Tamezo Mori

Dear Dr. K. Hamana :

Thank you, Thank you so much.....

It is a big surprise to know your announcing on the Photo of Prof. Dr. Tamezo Mori.

To all appearance, I think he was a very famous intelligent scholar in Korea and Japan .

He has a noble countenance with very dignified mien as a Big Scholar.

I open my eyes wide and cry out in surprise while looking it.

（以下，省略）

森先生の身内の方がいらっしやらないかと何人かにお聞きしましたところ，本会顧問杉田隆三先生かかりつけの医師森 為博様がお孫さんであることがわかりました。また，上郡町の赤松の郷昆虫文化館（播磨昆虫民族資料館）に森先生の遺品の一部が展示されているとのことで，早速，杉田隆三，三木正士，横山了爾，阪口正樹の4名で訪ねました。いろいろな資料がありましたが，「学位記」（資料4）と「朝鮮文化功労賞」（資料5）をご紹介します。

観しむも他人には容易に観しまい
即ち自己を愛撫し接觸するものに對
しては、無君體態に生ずる本能的愛
慕心を示すべきが、服従心は相當に
強み強です。したがって他に譲られ
た後も、君主を忘れず、新しい主人
に容易に馴れ馴れし、遠方でも
よく君主の處に歸つて来るさうです
即ち歸家性が優れて居る様です。又
訓練をするに拂子とりとか、石皿上

りとか、丸太渡りとか、障障物飛越
いとか申しますが、中には過度すべ
からざる氣候の持主もある様であり
ます。

骨格上より見たる
珍島犬

珍島犬の頭骨を日本犬・朝鮮野
時代出土犬・内地石器時代出土犬と
比較した測定表を示すと次の通りで
あります。

頭骨測定比較表

種	要	測定者	頭骨		頭骨最大長に 對する比
			基頭長	最大長	
珍島大五(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
珍島大四(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
珍島大三(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大十(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大九(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大八(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大七(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大六(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大五(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大四(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大三(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大二(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大一(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100

種	要	測定者	頭骨		頭骨最大長に 對する比
			基頭長	最大長	
珍島大五(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
珍島大四(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
珍島大三(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大十(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大九(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大八(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大七(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大六(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大五(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大四(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大三(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大二(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100
日本大一(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	100	100

註 齊藤氏の測定は日本大五(號)の種格と「石器時代犬」より轉載

右の測定表にて見らるゝ通り、珍
島犬はその頭骨の最大長の最大長に
對する比が小さいもの多く、即ち日
本犬に比して頭が稍長く頭幅が稍狭
い様です。しかし珍島犬にも測定表
の第三號及び第八號の如き、日本犬
に劣らざる頭幅の廣い古型のものも
あります。故に日本犬の方が、一
層に古い石器時代に個差せし頭骨の

狭い家犬に類似する所が多く、古型
である様です。それが珍島犬になる
と、古い型のものがあるが、頭
蓋最大長の最大長に對する百分比は
五四から五六の間のものも多く中
には第四號の如く吻の長いものもあ
り、故に珍島犬は古い型のものも
残つて居るが新しい石器時代に朝鮮
に入り込んだ金海頭骨犬の如き

四肢骨測定表

種	要	測定者	前肢骨		後肢骨	
			最大長	最上段長	最大長	最上段長
日本大十(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	121	121	
日本大九(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	121	121	
日本大八(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	121	121	
日本大七(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	121	121	
日本大六(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	121	121	
日本大五(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	121	121	
日本大四(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	121	121	
日本大三(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	121	121	
日本大二(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	121	121	
日本大一(號)毛色(茶)	齊藤氏	121	121	121	121	

註 齊藤氏の測定は頭骨の註にて述べたものと同種より轉載

私は珍島犬の四肢骨は個分より
所持していませんが、それも幸心種
の御覽力によつて得たものであり
ます。これを日本犬の頭骨の時同
長なナヲ號と比較して見ますと肢は
短く、頭骨の稍小さい日本犬ナヲ號
と略同長と云ふことになりましたから
日本犬に比し、肢が少しく短いの
ではないかと思はれます。しかし、こ
れは唯一個の標本で云ふのであるか
は確かではありません。今後材料を多
數集めて確かめたいと思ひます。

要するに珍島犬は立耳卷尾の朝鮮
固有犬で、前述の如く性能の上にも
幾多の優秀な英點があり、殊に内鮮
の關係を物語る有力な資料ともなる
ので、學術上及び實用上貴重なるもの
で、之を天然記念物として、優良な
純種種の保存愛護に務むべきことは
刻下の急務と思つて次第であります。
内地にては各地に日本犬保存會
が設けられ、純種優良種の飼養獎勵
が講ぜられ、唯今内地では日本
犬が出現し、唯今内地では日本
犬の點が随分高いです。珍島に於て
も、これに劣らぬ様、珍島犬の純種

優良種の見出しを報告せられ、
その品質の向上に努められんことを
切望して懸念します。
終りに本論文を草するに際し、種々
貴重なる材料を提供されし珍島郡
守金元會、珍島警察署長永里常樹、同
郡内務課長瀬戸重雄、同郡勸業課長
車南辰、同島公署幸心種、同島居住
船島二郎、同藤井二三、同藤井春
同藤明成、同藤飛雄、光州旭高等女
學校教諭武藤治火、道台議員曾澤深
智山而長村胤崇等の諸氏の御厚意に
對し深謝する次第であります。

結 言



(資料2) 兵庫農大副学長森為三先生



(資料3) 予科長森為三先生



(資料4) 学位記



(資料5) 朝鮮文化功勞賞